

はじけるこころ

Vol.44

まいにち学校  まいにち街  の中 こどもの笑顔につなげる

編集・箕面市人権教育推進会議
発行・箕面市教育委員会人権施策課

TEL 072-724-6921
FAX 072-724-6010

E-mail:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成29年(2017年)11月



あすチャレ! スクール

～パラリンピック選手との
交流を通じた障害理解教育～

この情報紙は、保育所・幼稚園・
小中学校の保護者を初め、広く市民
のみなさんに、身近な人権教育の話
題を知っていただくため、市民参加
方式で編集したものです。
ご家庭で子どもさんと、あるいは
ご近所や職場のかたと、こうした話
題にふれて、語り合っていただけ
ばと思います。

◇6月5日～9日

◇豊川北小、西南小、萱野北小、

萱野小、第六中学校

◇講師 元シドニーパラリンピック
車いすバスケットボール日本代表
キャプテン 根本 慎志 さん

市内小中学校5校で「あすチャ
レ! スクール」が実施されました。

この事業は、日本財団パラリンピ
ックサポートセンターが元選手を学
校へ派遣し、子どもたちと選手との
交流を通して、

＊他者のことを自分ごととして考
える心

＊障害とは何か

＊可能性に挑戦する勇氣

＊夢や目標をもつ力

などを学ぶ体験型授業です。

初めに講師の根本さんから、自己
紹介とともに、デモンストレーショ
ンが披露されました。競技用車いす
に乗り換えての軽快なドリブルに見
事なシュート。どの学校の子もた
ちからも「わあ!」と歓声が上がっ
ていました。

もくじ

あすチャレ! スクール

～パラリンピック選手との交流
を通じた障害理解教育～ … 1

第1回イキイキさわやかに学ぶ会
在住外国人と共に暮らす地域づ
くり～心の壁を考える～ … 2

第2回イキイキさわやかに学ぶ会
大切にしよう! 心とからだ
～子どもたちに伝えておきたい
生と性のはなし～ … 3

多文化共生(教職員人権教育研修)
～先生、一緒に楽しんでいま
すか? すてきな出会いからはじま
る～ … 4

平和登校日(第二中学校のとりくみ)
… 5

平和週間～学校図書館のとりくみ～
「子どもといっしょに平和につ
いて考える」 … 6

続いて、子どもたちの代表による車いすバスケットボール体験が行われ、競技用車いすに乗って試合を行いました。自分の思った通りに車いすを動かすだけで悪戦苦闘しつつも、友だちからの大声援を受けて、最後まで精一杯、楽しんでプレーをしていました。

最後に、根本さんから今日の授業を通してのお話がありました。

***できないこと、苦手なことは、決して格好悪いことでも恥ずかしいことでもない。できないことを一生懸命、楽しくやる。それがすてきだと思う。**

***障害とは困ることだとすると、今日、体育館で私は何も困っていないし、障害はありません。障害は、みんなや社会がつくり出すものですが、みんなや社会が、それをなくすることもできるのです。**

という話に、子どもたちも大きくうなずいていました。

「困っている人を助けることが、障害をこの世からなくすことにつながるとは知らなかった」

「障害があってもなくても関係ない。人が困っていたら、すぐ助けようと思う」

と感想を述べていた子どもたちの声が印象に残りました。

第1回 イキイキさわやかに学ぶ会

在住外国人と共に暮らす地域づくり

心の壁を考える

◇6月7日 メイプル小ホール

◇講師 箕面市国際交流協会 河合 大輔 さん

野崎 ターラー さん

タナヤ ムカルジ さん

初めに、講師の河合さんから、箕面市で暮らす外国人市民の現状や、多文化交流センターの紹介がありました。市内に95か国の国籍のかたがたが住まれていることに驚く参加者もおられました。

続いて、ターラーさん、タナヤさんから、マイクロ・アグレッション(※)についての経験や当事者として伝えたいことなどのお話がありました。多くの日本人は、お二人を外見で判断して、英語が話せるものだと思い、少し話しただけでも「日本語が上手ですね」と言われるそうです。また、日本人は外国の人にハローと声をかけなければならぬと思っている、などの話がありました。

その後、参加者のグループワークにて、「言われてカチンときたステレオタイプ(固定観念)発言」「思わず言ってしまったステレオタイプ発言」について話し合いました。



※ マイクロ・アグレッションとは、人種・民族に対する悪意や偏見を含む、他者へのささいな攻撃的言動や行いをいいます。相手を傷つけたり差別する意図がなく、無意識に行われるものです。

グループワークでは、例えば、10代後半から20代を「ゆとり世代」だからと決めつけて話してしまったり、子育てにおいて「お兄ちゃんだから」「お姉ちゃんだから」と日常的に言っている、という意見がありました。

「人権侵害に直面したらどうするか？」について考えるグループワークでは、**言ったこと自体や誰が悪いのかを追及するよりは、そこから新しい関係をつくっていくことが大切であり、相手を知ろうとすることが必要だ**という意見がありました。

参加者からは、「いろいろな人種のかたを初め、さまざまな価値観をもったかたと接する中で、自分の思い込みで、知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまったことがたくさんあったのでは」と考えさせられました。「ターラーさんの、常識や誠意を持って接したら心が通うのでは」という言葉が印象的でした。「マイノリティの壁というのは、外国人だけではなく、社会の中でも子育ての中でも起こりうることで、**自分勝手な思い込みや固定観念で決めつけるのではなく、それはなぜかを知ろうと興味をもったり、交流を図ることが大事だ**と思いました」「子どもたちにも、他人と仲良くなれないと決めつける前に、話をしたり興味を持てるよう、そして一緒に行動するよう伝えたい、と思いました。」といった感想がありました。

自分の思い込みで決めつけるのではなく、つながりをつくるという想いが大切なことが確認で

きた学習会でした。(もみじだより8月号の6ページもご参照ください。)

☆ 「イキイキさわやかに学ぶ会」は、市立小・中学校・幼稚園の保護者対象の、身近な事柄を通して人権について考える学習会です。来年1月まで計6回開催を予定しています。

第2回 イキイキさわやかに学ぶ会

大切にしよう！ 心とからだ

～子どもたちに伝えておきたい

生と性のはなし～

◇7月6日 メイプル小ホール

◇講師 思春期保健相談士 徳永 桂子 さん

講師の徳永さんは、性被害で悩んでいるかたの相談や、HIV（エイズ）予防や啓発に長年取り組みられています。

講演では、まず性被害の現状として、被害にあった子どもたちの多くは、周囲に被害を訴えていない、という実態があることが紹介されました。

その原因を参加者に考えてもらい、発表してもらった内容に即して、これまでの性に対する考え方を変えていくことの必要性と、**自分の身体は自分だけのものであり、大事なものであるからこそ守らないといけない**という身体についての自尊感情を、

子どもたちがもつことが大切だと語られました。

また、男子の性被害や、小学生から起こっているデートDV、性感染症の危険性などが、子どもたちに知識がないことによって起こっている、と説明されました。いわゆる「壁ドン」(※)など社会現象になったものが、実はデートDVにつながっていること、メディアの偏った取り上げ方で、子どもたちが間違って認識していることに気づかされました。

※ 男性が女性を壁際に追いつめ、壁にドンと手をついて迫ることで、近年の流行語となりました。



最後に、参加者を中学1年生と想定した性教育の模擬授業も行われました。真剣に聞かなければならない場面で、思わず笑いが出ても、それだけ心が動いている証拠だからよいことだ、と徳永さんはおっしゃいました。

性教育は大事なことだけでも、だからといって特別視はしない、そのように進められた講演は、新たな発見の連続となりました。

性については、家庭では3歳頃から子どもに教える方がよいということ、**日頃から身体の自尊感情を高める働きかけをすることで、何かあったときに子どもが相談できる関係を築ける**ということを知りました。子どもだけでなく大人も意識を変えていく必要がある、と考える機会となりました。

多文化共生（教職員人権教育研修）

～先生、一緒に楽しんでいますか？

すてきな出会いからはじまる～

◇7月27日

◇多文化交流センター コムカフェ

◇講師 とよなか国際交流協会

常務理事 金相文（キムサンムン）さん

箕面市でも外国人市民、外国にルーツのある児童生徒が増えてきている中、ヘイトスピーチ解消

法（※）が昨年度施行され、外国人をとりまく課題について理解を深めることがますます求められています。この研修では、教職員を対象に何ができるのか、多文化共生をテーマとして考えました。

※ 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律



金相文さん

講師はまず、在日韓国人としてのご自身の生い立ちから話されました。当時の学校の先生、警察官、地域の日本人から言われたこと、例えば、高校受験では「高校へ行くのか」と言われ、選択肢が限られていたこと。警察官からは在日韓国人というだけでバカにされたこと。実際にあったことを具体的に話されたため、心に突き刺さるような感覚をおぼえました。

日本で、多くの在日韓国・朝鮮人のかたがたが本名（民族名）を名乗れないことが、いかにおかしなことか、いかに世界の常識とかけ離れていることか、という説明もありました。

また、自ら大阪市内で公立小学校教員をしていた時代、子どもたちが何の悪気もなく、「**先生、何**

に乗って学校にくるの？」というエピソード（子どもは先生が、朝鮮半島から毎日通勤していると思っていたそうです！）も紹介されながら、子どもたちの隣国との出会い方について、**否定や対立ではなく、お互いを認め合い、楽しく交流することから始めるのが大切だ**と話されました。

最近の多文化共生、国際理解教育についても貴重なアドバイスがありました。

「**3F**」から「**3T**」へ。学校教育ではよく「**F**ード（食べ物）」「**F**ァッション（衣服）」「**F**ェスティバル（祭り）」がテーマになりがちです。でも今後は、外国にもう一歩「**ち**」かづいてほしい、内容をもう一段「**た**」かめてほしい、ふだん出会わないような人ともう一人「**つ**」ながってほしい、とのことでした。

また、教室には外国にルーツのある子どもたちがおり、すべてが日本人という前提で話さないでほしい、在日の子どもたちは自己肯定感が低い、取れる資格もあるし、世界で活躍している人もいる、**子どもたちには決してあきらめないよう指導してほしい**、と話されました。すべての子どもたちが共に心豊かになるために、多様な人々や知らない世界との出会いの大切さを学んだ研修でした。

（会場のコムカフェでは、箕面に住む外国にルーツのあるかたがたが仕事をして活躍されています。多くの教員がその場を直に見てもらえるよう、会場をここに設定しました。）

平和登校日 く第二中学校のとりくみく

◇8月4日 グリーンホール

例年、広島原爆の日に合わせて8月6日に実施している、第二中学校の平和登校日。今年は暦の関係で4日に実施されました。

全校による黙祷からはじまり、各学年の「平和アピール」がそれぞれ宣言されました。



1年生

1年生代表からは、「千羽鶴の佐々木禎子さんの物語」(※)について話した後、平和を築くために自分たちができることとして、**全員が仲良くする、つながりをつくる、**などについて発表がありました。



2年生

2年生代表からは、自らの学年で作成した学校人権宣言をもとに、**いのちの大切さ、全ての人が**

安心して過ごせる学校について、また、宿泊学習で学んだ、まわりのみんなの支え、仲間の大切さについて、思いが述べられました。



3年生

3年生代表からは、1学期の沖縄修学旅行での実体験をもとに、全世界がもつ平和に暮らす権利、**平和はお互いの違いを認め合うことから始まる、自分たちは戦争という過ちを繰り返さない、**などについて発表されました。

最後に、映画『この世界の片隅に』を全校で鑑賞し、平和登校日が終わりました。その後、3年生の代表のみなさんに、修学旅行で学んだことに

ついて事務局から質問しました。今日の暮らしとの違いに驚いたとともに、**ガマ**(※)や**平和祈念資料館での体験をいつまでも忘れない**ことが平和をつくる上で大切だ、この思いを語ってくれました。

時期、内容はさまざまですが、各校で平和学習が行われています。若い世代が平和学習にしっかりと取り組む大切さを、中学生と話をする中で、つくづくと感じさせられました。

※ 佐々木禎子さんは、被爆による白血病で亡くなった12才の少女。彼女が入院中、鶴を折り続けていたことになみ、平和公園内の「原爆の子の像」には、今も世界各地から年間約1千万羽の折り鶴が捧げられています。

※ **ガマ** 沖縄戦で避難に使われた洞窟。集団自決などで多くの死者が出ました。



平和週間 学校図書館のとりくみ
「子どもといっしょに平和について考える」

◇6月28日 東小学校

東小学校では6月下旬の2週間で平和週間として、平和や戦争について学習する様々なとりくみを行っています。今年は「平和のつどい」で、『**ちいちゃんのかげおくり**』(※1)や『**すみれ島**』(※2)などの戦争に関する絵本を題材として、各学年から発表がありました。1年生から順に舞台に映されたスライドショーに合わせて、学習したことの総括や朗読を行い、6年生は『**伸ちゃんのさんりんしゃ**』(※3)を劇として披露しました。

※1 『ちいちゃんのかげおくり』 あまんきみこ／作 上野紀子／絵 あかね書房 1982年

※2 『すみれ島』 今西祐行／文 松永禎郎／絵 偕成社 1991年

※3 『伸ちゃんのさんりんしゃ』 児玉辰春／作 おぼまこと／絵 童心社 1992年

各学年の発表を真剣に聴いている姿には、戦争を経験していない子どもたちなりに、平和の大切さや戦争の恐ろしさが胸に響いているように見えました。



これと合わせて、平和週間の期間中、学校図書館では平和や戦争に関する絵本の読み語りも実施しましたので、その中から3冊を紹介します。

『せんそうしない』 谷川俊太郎／文 江頭路子／絵 講談社 2015年

戦争や平和という概念を子どもに伝えようとすると、いくら言葉があっても足りず、重ねるほどに複雑で難解になっていきます。「ちようちよちようちよはせんそうしない すずめとかめはせんそうしない せんそうするのはおとなとおとなというシンブルでまっすくな言葉は、どの年齢の子どもにも分かりやすく、自然と心に落ちてきます。



『もっとおおきなたいほうを』 二見正直／作 福音館書店 2009年

お気に入りの大砲を打ちたいがために、王様はキツネと争いを起こします。争いはエスカレートし、大砲はどんどん大きく奇妙な形になっていきます。けれども、キツネに騙されたことに気付いた時に残っていたのは、大小様々な大砲ばかり。武器の開発競争の愚かさをやさしくコミカルに描いています。



『せかいでいちばんつよい国』 デビッド・マツキー／作 なががわちひろ／訳 光村教育図書 2005年

ある強大な国が次々と他国へ戦争をしかけ、征服していきます。残ったのは、とても小さな国がひとつだけ。ところが、その国には兵隊がいなかったため戦争ができません。小さい国に留まるうちに、兵隊たちにある変化が起こります。強力な武器や兵隊をもつ国が本当に一番強いのか。「強さ」の本質とは何かが、物語の中にそっと含まれています。



(東小学校図書館)

☆編集後記☆

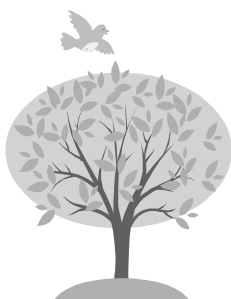
前号で「イキイキさわやかに学ぶ会」の報告として、発達障害をテーマにした講演会の記事を掲載しましたが、小学校の保護者のかたから次のようなご意見をいただきました。

「子どもが自閉症スペクトラムで周囲から理解されにくく、学校や地域でわがまを言っていると思われ、ストレスを抱えています。これからも、発達障害がどんな困難をもち、どんな支援が必要かを理解、実践できるよう、研修や啓発を続けてください」とのことでした。

箕面市では、障害のある子どもも障害のない子どもも、通常の学級の中で「ともに学び、ともに育つ」教育を進めており、支援学級の担任と、市が独自に配置する支援教育助員が、子どもたちのコミュニケーション支援や環境づくりなどを行っています。

発達障害の程度やその表れ方には個人差があります。子どもが学校や地域でいきいきと生活を送るためには、子どもの特性に合った支援や環境整備、そして周囲に正しく特性を理解してもらうことが大切だと考えています。

今後もより理解が深まるように、支援教育のとりくみ、教職員研修、保護者・地域のみなさんへの啓発を進めますので、ご協力をお願いいたします。



「はじけるころ vol.44」はいかがでしたか？

みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。下記の①～④の内容を、郵送、ファクスまたはEメールにてお送りください。これからも人権教育に関心をもっていただける記事を掲載したいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております！

記

- ①ご意見・ご感想、②お名前（無記名でも構いません）、③「はじけるころ」の入手方法、④（「はじけるころ」に掲載する場合がありますので）、ご意見・ご感想掲載の可否について

〒562-0003 箕面市西小路 4-6-1 箕面市教育委員会人権施策課
FAX : 072-724-6010
Email : edujinken@maple.city.minoh.lg.jp